

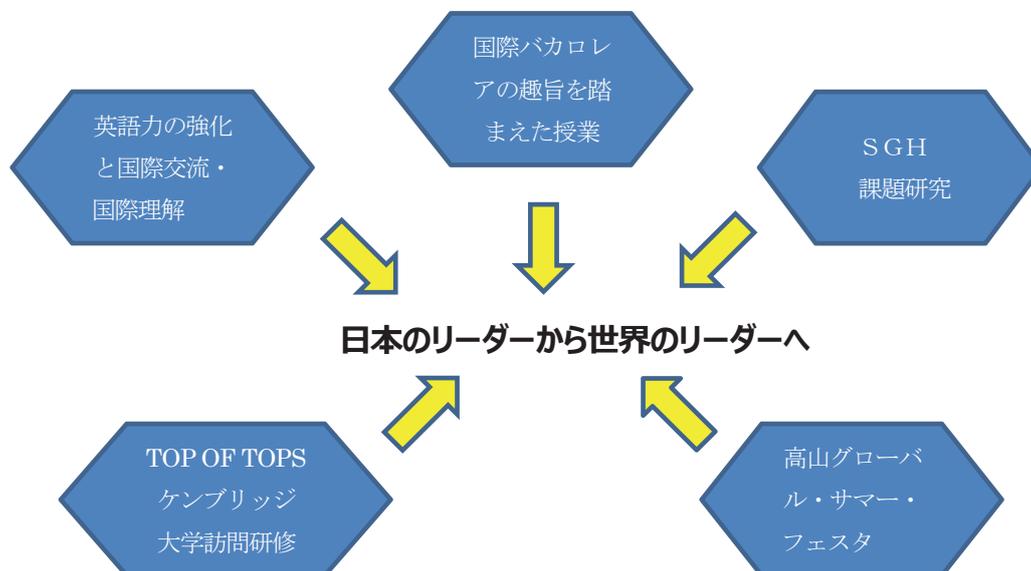
# 愛知県立旭丘高等学校

## 日本再興戦略を支える 若手グローバル・リーダー育成に関する研究開発

### 【構想の概要】

#### ○研究開発の目的

「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究」により獲得した批判的思考力と県立学校アクティブチャレンジ事業で行った課題研究をもとに、英語によるコミュニケーション、ディスカッション、論文作成能力を獲得するためのカリキュラムを開発し、海外でのフィールドワークを行う課題研究に取り組み、国際性に富むグローバル・リーダーを育成する。



#### ○教育課程表（普通科） ※（ ）内の数字は単位数を表す。

1年	2年	3年
国語総合(4)	現代文B(1)	現代文B(2)
SG地理(2)	古典B(3)	古典B(2)
数学Ⅰ(2)	世界史A(2)	政治・経済(2)
数学Ⅱ(1)	日本史A(2)	数学Ⅲ(1)
数学A(2)	倫理(2)	数学B(1)
生物基礎(2)	数学Ⅱ(2)	体育(2)
地学基礎(2)	数学Ⅲ(2)	コミュニケーション英語Ⅲ(3)
体育(3)	数学A(1)	英語表現Ⅱ(1)
保健(1)	数学B(1)	SG総合(探究)(1)
芸術Ⅰ(2)	物理基礎(2)	選択科目(15)
コミュニケーション英語Ⅰ(2)	化学基礎(2)	
コミュニケーション英語Ⅱ(1)	体育(2)	
英語表現Ⅰ(2)	保健(1)	
家庭基礎(2)	芸術Ⅱ(1)	
情報の科学(2)	コミュニケーション英語Ⅱ(2)	
	英語表現Ⅱ(2)	
	SG総合(思考・表現)(1)	

## ○ 国際バカロレアの趣旨を踏まえた授業

本校では、全校生徒が課題研究に取り組むための3年間を見通した教育課程を構築している。第1学年では「SG地理」を課題研究の入門と位置づけ、社会への視野の広がりを目指し、第2学年では、「SG総合（思考・表現）」を通して課題研究力の向上と社会と自分との接点を見つけることをねらいとしている。また、第3学年の「SG総合（探究）」では、これまでに培ってきたスキルと社会への意識を活かし、各自が設定した課題に対する探究活動、さらには具体的な今後の学びにつなげる行動を目指している。

### 【1年：SG地理】

地球的課題の中から具体的なテーマを選び、グループ研究を通して、友と協力し、主体的に学ぶ探究的な学習スタイルを確立することを目標とする。情報を収集する力や、効果的に情報を発信する能力と、討論を通して幅広い考え方を身に付け、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質の育成を目指す。

### 【2年：SG総合（思考・表現）】

思考を深め、発信力を高めることを目的に、社会の仕組み、地域の課題、人々の生活をより良いものに変えるプランをグループで協働作成し、さらに英語のポスターにして全体の前で発表する。また、社会問題を取り上げて個人で英語論文（約1000語）作成する。



2年 SG 総合(思考・表現)発表



3年 SG 総合(探究)発表

### 【3年：SG総合（探究）】

客観的な文献・論文や資料等をもとにしながら、物事を批判的・論理的に捉え、考える機会とすることを目的とする。3年普通科生徒全員が10講座からいずれか1つを選択し、担当教員（全教科）の指導のもと、探究活動を行う。進路につながる分野のテーマについて少人数のグループに分かれ、調査研究したものを発表するとともに、総括として論文・レポート集（冊子）を作成する。

## ○ SGH発展的事業

### (1) SGH課題研究

「共生と調和のグローバル時代を目指して～アジアから世界へ～」をコンセプトに、研究対象国（韓国・台湾）の文化や歴史、政治、経済などを研究する。1、2年生希望者（25名）を対象に、以下の①から⑩の内容を実施する。



高陽国際高校との意見交換

①授業後の課題研究ゼミ

②国内巡検（6月）

③海外巡検（12月）

④研究者との討議

⑤論文作成

⑥外国人留学生と討論

⑦高陽国際高校（韓国）、師範大学附属高級中学校（台湾）の生徒と意見交換

⑧国際コンクールでの発表

⑨UNWomenでの資生堂とタイアップしての発表

⑩模擬国連出場

### (2) SGH Top of Tops ケンブリッジ大学訪問研修

世界最先端の研究環境を体験させることでグローバルリーダーへのステップとすることを目的とする。2、3年生希望者（12名）を対象に、約2週間（7月～8月）英国ケンブリッジ大学を基点として、以下の①から④の内容を実施する。

①各自の研究テーマに沿った探究活動

②世界各国（イギリス含む）の高校生とグローバルリーダー講座への参加



ケンブリッジ大学研究室訪問

③研究室見学・講演

④英語論文（約4000語）、

英語ポスター作成（帰国後）

### (3) SGH 高山グローバル・サマー・フェスタ

SGH校の生徒が集い「グローバルリーダーとは何か」について考える機会とする。旭丘・名城大附属・四日市・高岡・高山西の希望生徒を対象とする。8月に3泊4日の日程で、旭丘高校林間学舎を利用し、最先端の科学技術や企業経営などの講演、SGH校生徒同士の討論を実施する。

## 資生堂・UN Women のジェンダー平等啓発事業とタイアップした SGH 課題研究ゼミの運営

SGH 事業のけん引役として、生徒 25 名を募集し、1 年間、グローバル化で生じた課題の解決策を考えるゼミを開いている。29 年度は「女性の社会参画」のテーマで、資生堂・UN Women のジェンダー平等啓発事業とタイアップしたプログラムを作成した。

### ◆ステップ1 (インプット+探求と発表+討論)

ゼミは毎週火曜日の授業後 100 分、地歴公民科の教員 5 名の指導で講義、25 人の生徒の研究発表、討論をおこない、その他に講演会、国内巡検を実施した。この中で、資生堂のサステナビリティ戦略部の方と、「資生堂インパクト」に代表される、現在、企業内で進められている男女平等の働き方改革についてのワークショップも開いた。

ゼミでの探求の成果は、10 月、国連大学でおこなわれた啓発事業全国大会で発表した。そこでは本校生徒へのアンケートに基づき、「男は仕事、女は家庭」の考えに対し、ほとんどの生徒はそれを否定しているが、自分の働き方と、配偶者に対する希望は性別役割分担意識に縛られており、ホンネとタテマエが乖離していることを示した。しかし、母親が働く家庭の生徒は共働きに対して理解があり、性別役割分担意識が抜けないのは、身近なところにロールモデルがないためではないかと考え、男女平等の働き方が模索されている企業の実態を知ることの重要性を指摘した。また、将来は仕事で活躍したいと考える女子生徒が、男子生徒の考えを変えてゆくことが大切で、そのためのロールプレイングゲームを開発することを提言した。



### ◆ステップ2 (海外からの視点)

日本人だけでは気づかなかった見方を確認するため、韓国の交流校・高陽国際高校の生徒に同じテーマで課題解決策を考えてもらい、年末に韓国を訪問して英語で意見交換をおこなった。韓国も女性の社会参画が進んでいないが、仕事と家庭を天秤にかけた時、日本の女子生徒が家庭をとると答えたのに対し、韓国の女子生徒は仕事をとるという答が多く、そのために非婚化・少子化が日本以上に進行していることがわかった。儒教の伝統に基づいた、教育に対する親の多額の投資と、子供の親への恩返しに近い気持ちが背景にあり、「女性の社会参画」の推進のためには、社会・文化面からのアプローチが必要なことも気がついた。

### ◆ステップ3 (アウトプット)

3 月にゼミの生徒が講師役となり、全校生徒を相手にワークショップを開き、日韓ともに進まない「女性の社会参画」の問題を一緒に考えた。ここでは開発したロールプレイングゲームを実施し、「男は仕事、女は家庭」と「夫婦共働きで家事分担」とで、世帯あたりの生涯収入はどちらが多いか、男女ペアになり、漢字の書き取りを有償の仕事、折り紙を無償の家事労働に見立てて試してもらった。わかりやすく楽しかったと好評だった。

一連の取組みを通じ、生徒は今の企業で進められている、グローバル化に対応した男女平等の働き方改革のことを知り、自らの進路設計に対しても見方を変えることになった。また、企業側にとっても、高校生の意見は社内の働き方改革を考える上での参考になるとされ、互いに Win - Win の関係を作ることができ、メリットが大きいと感じられた。

## 日本政策金融公庫と連携した総合的な学習の時間 SG総合（思考・表現）

### 1. 日本政策金融公庫との連携

「総合的な学習の時間」での出張授業

#### (1) 出張授業（年間3回）

##### ◆<第1回目「ビジネスアイデアの発想」>（6月）

以下を重点としてビジネスアイデアについて学んだ。

- ①高校生としての豊かな発想や着眼点で、世の中の仕組みの改善、または地域・社会に貢献する事業内容。
- ②ニーズ、顧客（ターゲット）、広告・宣伝などの具体化。
- ③経営資源であるヒト、モノ、技術、方法等の工夫。
- ④収支計画でのビジネスの継続性。

##### ◆<第2回目「ビジネスプランの作成の仕方」

～実践編～>（7月）

第1回目の出張授業を踏まえ、プランをより具体的に練ったものへ改良するためのポイントを学んだ。

日本政策金融公庫担当者の講義の後に前回の出張授業で出されたビジネスプランの課題を各グループの代表がプレゼンテーションし、担当者から具体的なアドバイスを受け、次のステップであるビジネスプランシート作成へと繋がった。

##### ◆<第3回目「ビジネスプランプレゼンテーション」>（10月）

学年合同発表会を実施し、第2回目の出張授業から、さらに改良したビジネスプランの詳細案を全グループがプレゼンテーションした。

(2) 日本政策金融公庫主催「第5回高校生ビジネスグランプリ」に8クラス×8グループ=64グループがエントリーし、ビジネスプランシートを提出した。

(3) 日本政策金融公庫主催「第5回高校生ビジネスグランプリ」の各プラン審査結果とフィードバックで振り返りを実施した。

### 2. 校内での取組

出張授業の事前・事後指導

- ・日本政策金融公庫と本校の担当者の連絡、打ち合わせを徹底し、出張授業の前後に本校担当者が生徒の活動を円滑に進められるようにした。
- ・批判的思考力を用いること、協働して活動することなどのスキルを高めるものとした。

・ビジネスプランシートを完成させた後に以下の活動を行った。

- ①各グループがそれぞれのプランを英語ポスターにし、そのポスターを用いて全体発表会を実施した。
- ②名古屋大学大学院の留学生を各クラスに4名ずつ招き、留学生の出身国と日本が抱える経済問題などをグループで意見交換した。
- ③日本の経済を取り巻くグローバル問題を考え、自分の意見や考えをまとめた。具体的には、「なぜ日本は有能な外国人にとって働くには魅力のない国なのか」についての英文記事とデータをクリティカルに読み解き、グローバルな人材育成の課題解決策を生徒各自が英語論文（1000語）を作成した。

### 3. 学校内外での発表

成果の普及と共有

- ・校内「SGH成果発表会」において代表生徒が全校生徒へビジネスプランのプレゼンテーションを行った。
- ・「あいち イングリッシュフォーラム」において、代表生徒がビジネスプランを英語でポスタープレゼンテーションした。
- ・日本政策金融公庫主催「第5回高校生ビジネスグランプリ」全国ベスト100に選出されたチームが東海3県Awardにて他校の代表グループや東海財務局等の方にプレゼンテーションした。
- ・「第一回 京都大学ポスターセッション」において、代表生徒が全国のSGH、SSH校の生徒および京都大学関係者にプレゼンテーションを行った。



校内発表会



東海3県Award発表会